

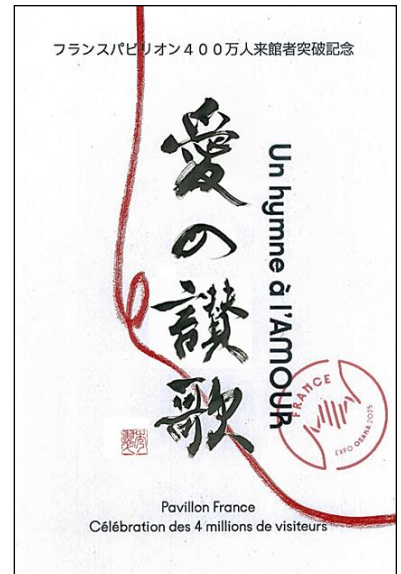
木下真理子(書家)活動ダイジェスト

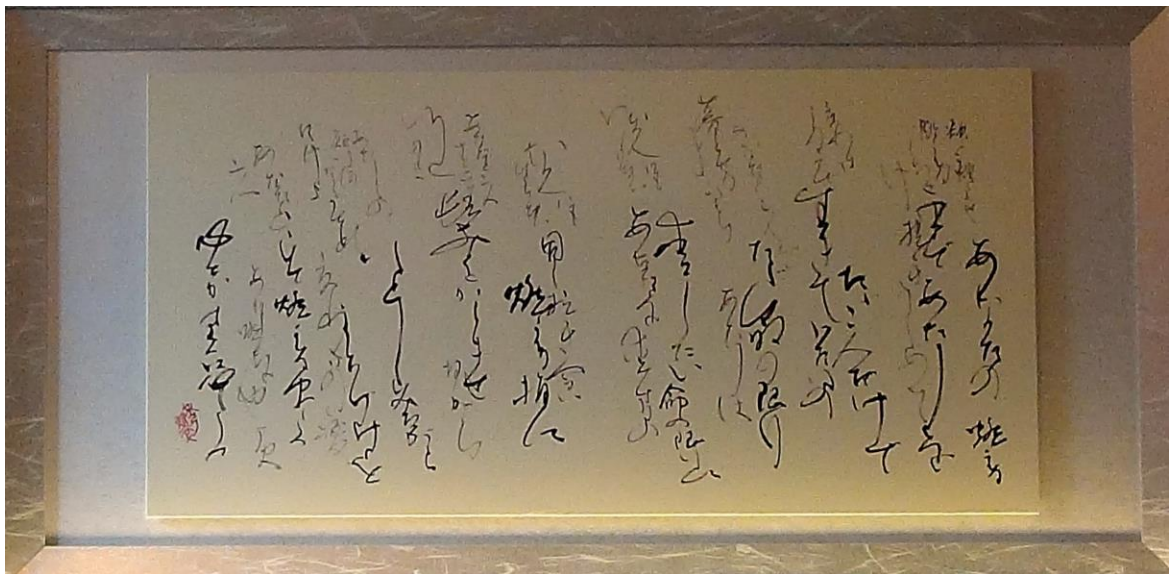
ー伝統を継承し、現代に生かすー

かつて岡倉天心が『茶の本』で日本の茶の思想を語り、川端康成が『美しい日本の私』で日本の自然観を世界へ伝えたように、東アジア文化圏にある、日本という国の風土と歴史によって育まれてきた「日本文化」の魅力を、私は書家として伝えています。

それは文字の形象、言葉の情感、筆の筆致、墨の響きといった、書に内在する古の精神性と美意識を尊びながら、この時代に生きる自らを、さまざまな分野の人たち、西洋文化にも結びつけて、国内外にプレゼンテーションしていくことでもあります。

■フランス館のテーマである「愛の讃歌」を揮毫。垂れ幕や館内のエントランス及びプロコ
ラウンジに掲出。「来館者400万人突破記念」の式典では公開揮毫を実施





エディット・ピアフ「愛の讃歌」／岩谷時子 JASRAC 出 2507181-501



「正倉院展」題字

伝統文化における書家の活動領域:題字制作



東映正月映画「利休にたずねよ」 大友克洋 総指揮「SHORT PEACE」

日経ビジネス



Netflix「未来日記」



NHKスペシャル年間シリーズ「巨龍中国」



LUMINE 全面 リニューアル

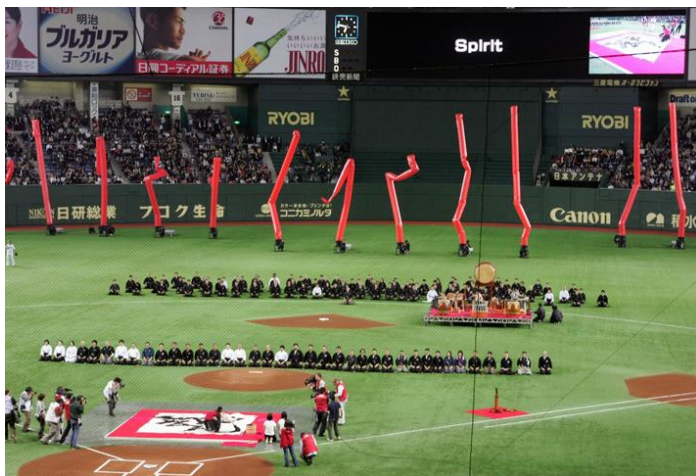


宮内庁正倉院事務所「正倉院展」



NHK BS「にっぽんプレミアム」年間キャンペーン

伝統文化における書家の活動領域:公開揮毫



メジャーリーグ 開幕戦 オープニングセレモニー
(東京ドーム)



日本初の国立博物館巡回展 開幕式典
(東京国立博物館)



京都府主催「京都ヒストリカ映画祭」プレス発表会
(重要文化財・京都府庁旧本館正庁)



日中韓合作映画「マイウェイ」ジャパン プレミア
(ホテル ペニンシュラ東京)



奈良県主催「日本書紀完成1300年」記念式典
(奈良春日野国際フォーラム 能楽堂)



蒙日初 チンギス・カン「元朝秘史」共同揮毫
(モンゴル国立博物館)

■「日経リユクス」書家・木下真理子が行く、心身を浄化するパワースポット巡り



知恩院



東福寺



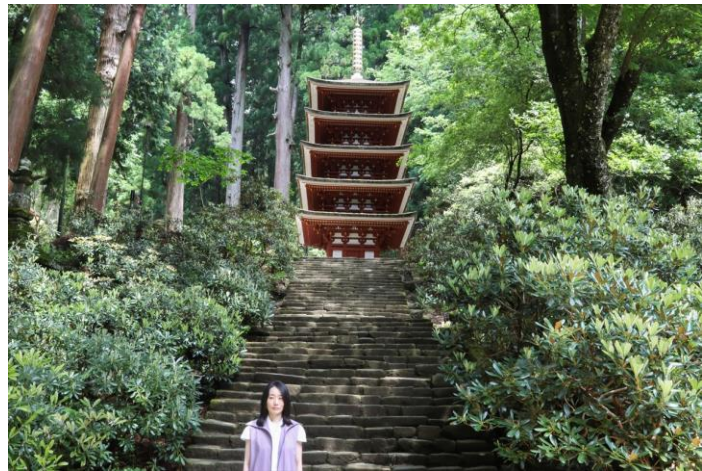
高山寺



三輪山・大神神社



石上神宮



室生寺

NikkeiLUXE

FASHION BEAUTY LIFESTYLE STORY DAZZLE eBouge



LIFESTYLE

2008 U.S. LIFESTYLE

書家・木下真理子が行く、洗心パワースポット
——高山寺

■ 降り注ぐ、京都屈指の雷場の空気を全身に浴びて

これによってパースボットとして取り上げられてきた無名な会社の名前は、いかに石といったものが生まれ、商業的な見聞を込めて完成してしまつたことがありますが、高山寺はそうした名前の誕生に必ずしも必要としない。まさに「オーガニック（天然）」なパースボットと云えます。



高山寺のある町尾、猪尾（エサの尾）、高尾（高尾）の高山は「高尾（さんだ）」と呼ばれ、京都府内の地名としてきました。高山寺で参拝される場合は、この山々がこれまでに創ってきた歴史が背景にあります。



RANKING



「侘び茶」の精神的なルーツを辿る

和道 日本文化 心のしきたり 美のこだわり

2017年1月11日(水) 木下 真理子



静謐なその空間は俗世を切り離す。草庵風の茶室にて (photo by nanaco、以下同)

禪宗の伝来とともに日本に芽吹いた喫茶文化は、禅僧や武士たちの間に根付き、室町将軍家の文化サロンにおいて、格式のある「書院の茶」として整えられました。

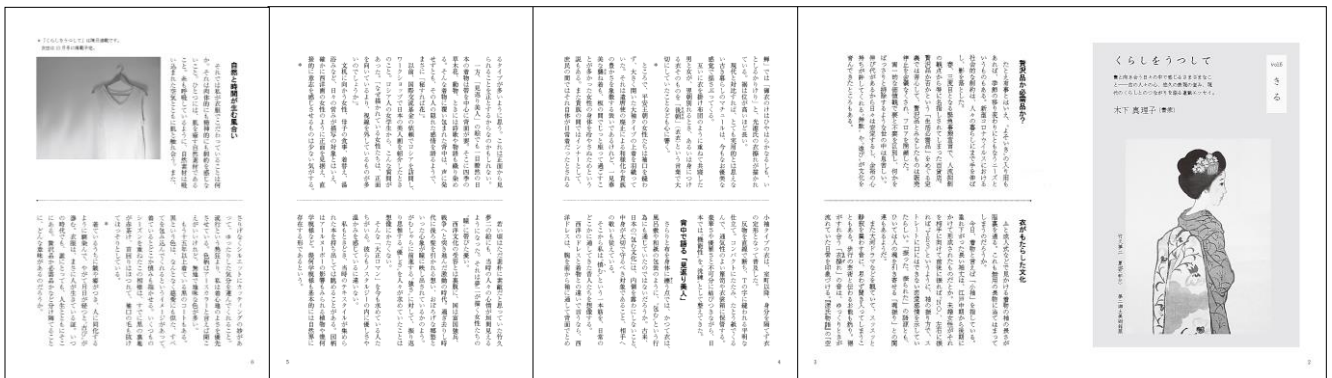
一方で、今日私たちが侘び・寂びという言葉からイメージする「草庵の侘び茶」は、大阪の堺にルーツがあります。当時の堺は、南蛮渡来の商人たちがヴェネチアと比較する程の繁栄ぶりでした。

そんな堺の商人たちと、あの一休禅師との出会いによって生まれた侘び茶。今回は、中世日本文学をご専門とされ、表千家の不審電文庫の運営にも携わっていらっしゃる生形貴重さんと一緒に、侘び茶のルーツを巡るお話です。

書家 木下真理子

「日経リユクス」洗心パワースポット

「日経ビジネス」和道—日本文化 心のしきたり 美のこだわり



「茶道雑誌」くらしをうつして



過現未の線上で目にしたもの

連載実績

読売新聞(2010～2011)

みんなの漢字 (2013)

日経おとなのOFF(2013)

日経ビジネス(2015～2018)

墨(2017~2021)

日経リュクス(2018～2020)

茶道雜誌(2020~2022)

「墨」風につたへし

■雑誌「婦人画報」4P広告

「雪肌精MYV」が追求してきた和漢植物の力を
先進の処方融合して生まれた
最高級シリーズ「雪肌精MYV」。
雪のように澄んだ清らかな肌への通達
とした旨まい……。日本女性の
なやかな美しさを体現する、
書家の木下真理子さんに登場いただき、
古より日本人の美意識に宿る清らかさの
憧憬について、お話を伺いました。

撮影：戸田幸雄(写真) 美木大造(人物)
スタイリング：吉村ひとみ(2名)
ヘアメイク：藤原麻由(1名) 小島(1名)
メイクアップ：藤原麻由(1名) 小島(1名)
スタイリング：吉村ひとみ(2名)
ヘアメイク：藤原麻由(1名) 小島(1名)

雪肌精MYV
CYCLATOR
MASSAGE SERUM

清冽と、美しき人

どこまでも澄んだ
透明感のために
「雪肌精MYV」

神聖なるものとして受け継がれ、
歳月をかけて研ぎ澄まされてきた「文字」。
脈々とつながるその精神性を敬いながら
自分の書としてどう昇華させるのか。
その奥深さに、ますます魅了されています。

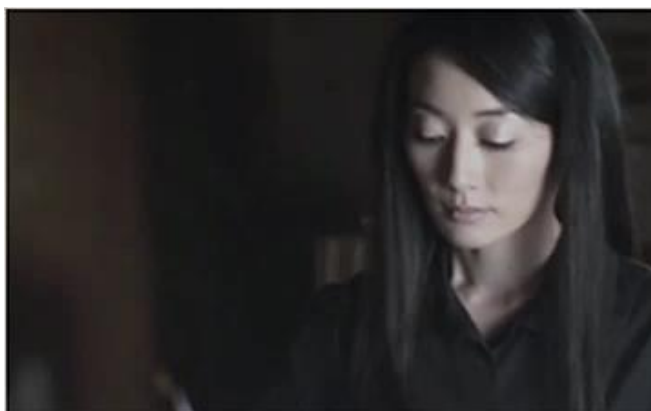
— 書家・木下真理子さん —

217 fujingaho july

ワンピース / 42,000円 (tax別) スカート / 19,000円 (tax別) M-K SQUARE 専任スタイリスト 玉置京子

「雪肌精MYV」

■コマーシャルフィルム



「INFINITI」NISSAN USA



「α NEX—F3」SONY

美しい文字

DEC. 2014 読売家庭版 2



メール全盛の現代、日常で筆をもちつ機会はどこにないかしれませんけれども、映画のタイトルや日本料理店の標、あるいは芳名帳など、ふと筆文字を目にしたとき、あつ美しいと感じることもあるのでは無いでしょうか。

もし自分の名前や年賀状に使う文字だけでも筆で書けたら、暮らしに深みが増えそうです。

日本語の文字には漢字と仮名が使われています。漢字は中国で3000年以上前に生まれ、もともとは人間と神との交信のためにあつたと言われていて、漢字が朝鮮半島を経由して日本に普及したのは古墳時代。その後、漢字を明して、日本独自の平仮名が作られていきました。



監修・木下真理子
書家、雅号は真鏡。読売書法会幹事。高木聖樹に師事。大東文化大学卒業。専門は漢字で、とくに書道の本質を研究。また女性の感性を生かした漢字派交しり書にも取り組む。「第64回正倉院展」収蔵「利休にたすねよ」の題字。世界各地での公開講座などでも活躍中。
寄稿先 kinoshitamariiko.com/school/

読売家庭版 創刊600年記念号 巻頭7P特集「美しい文字」監修

好奇心の、その先へ
NHKカルチャー

全国から講座を探す 青山 キーワードを入力 検索 お近くの教室を探す

▶ 受講規約 ▶ 会員特典 新規ご利用登録 ログイン

NHKカルチャートップ > 青山教室 > 書道・カリグラフィー > 漢字 > 書道と日本文化 〜ユネスコ無形文化遺産 登録へ〜

青山教室

☎ 03-3475-1151
東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル西館4F

📍 地図・受付時間

冬講座案内
CLICK!!

全国どこからでも
オンライン講座
ご自宅から簡単受講!

NHKカルチャー
ONDEMAND SEMINAR

いつでも、どこでも
受講できる
動画配信サービス

資料請求はこちら
お気軽にお申し込みください

教室トップ 受講に際して お申し込み方法 お問い合わせ

書道と日本文化
〜ユネスコ無形文化遺産 登録へ〜
講師：書家 木下真理子

カテゴリー：書道・カリグラフィー > 漢字 / 書道・カリグラフィー > 実用・ペン字

印刷する ☒ お友達におすすめ

2009年の中国書法、2013年のモンゴル書道に続き、近いうちに日本の書道がユネスコ無形文化遺産に登録される見込みです。
本講座では「書く、ことのみならず、書を「見る（眼を養う）」、書を「読む（古に学ぶ）」、書を「話す（魅力を知る）」、ことを通して、書道の素養とセンスを身につけていきます。
そして中国から受容した漢字、それを独自に変容させた仮名、漢字と仮名の交じり合いから浮かび上がってくる「日本らしさ」についても考えます。
雅なお香、癒しの音楽も取り入れた空間で、受講生の皆さん方のほどよい関係も大切にしつつ、リラックスした書のひとときを過ごしていただきたいと思います。

■Y's (Yohji Yamamoto inc.) との「Calligraphy Collection」

ファッションデザイナー・山本耀司の言葉とポエトリーを木下が書き下ろし、その書を断簡状にして、再構築する、木下独自の「不立文字（ふりゅうもんじ）※」という手法をコンセプトに、服作りの定石である「断裁」と「縫製」によって、「不立文字」作品として仕立てたコレクションライン。

※禅の根本思想で、悟りや真理は文字では伝えきれず、心から心へ伝えること(以心伝心)

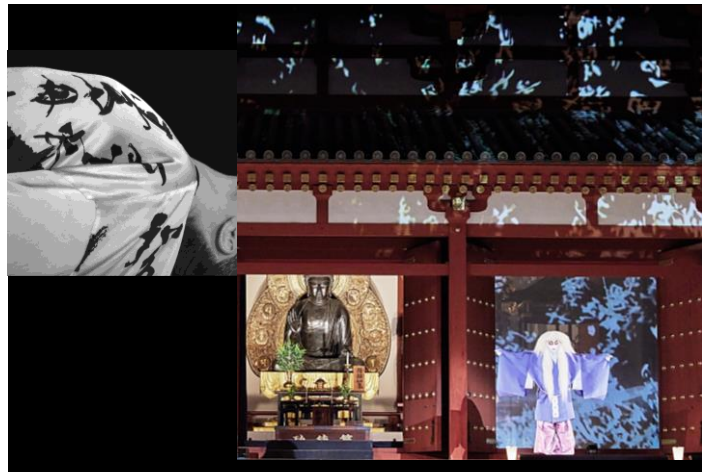
関連情報 https://www.mistore.jp/shopping/feature/women_f2/ys_collaboration_w.html



現代における書家の活動領域:コンセプチュアルアート



「Y's Calligraphy Collection」
(伊勢丹新宿他、全国有名百貨店及び海外)



中村獅童 奉納演舞 衣裳・プロジェクションマッピング
(薬師寺 金堂)



ミラー作品「舞姫」他
(ロシア国立図書館)



書による現代アート作品「茶の本」
(南條史生 総合ディレクター KENPOKU ART)



「円相」
(HOLIDAY MAGAZINE paris)



文化庁主催 コンセプトエキシビジョン「fragments」
(羽田空港 国際線ラウンジ)

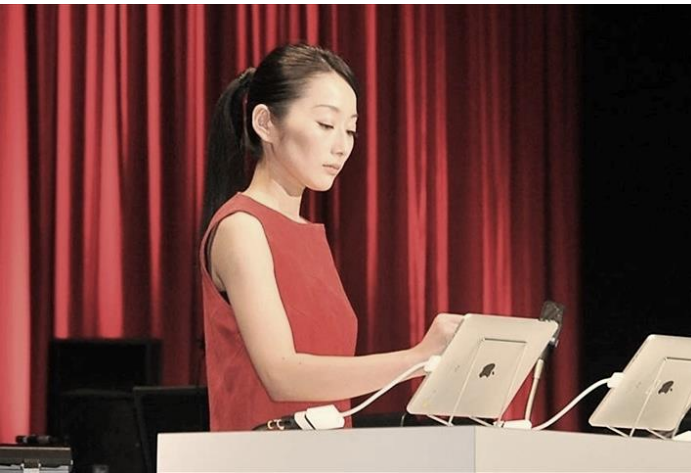
現代における書家の活動領域:ミックスカルチャー



4KTV PV「桃李成蹊」
(Panasonic VIERA)



インフィオラータ 招待作品「花鳥風月」
(ユネスコ世界文化遺産 ノート市／イタリア)



Apple世界初タブレット端末の公開揮毫「利休道歌」
(両国国技館)



新宿 3大ヴィジョンインスタレーション作品「方丈記」
(新宿クリエイターズフェスタ)



TOKYO PHOTO出品作品「能 井筒」
(丸の内 TOKIA)



FENDI 日本上陸50周年
記念キャンペーン

■ルイ・ヴィトン(ジャパン)他の出資による、海外展開プロジェクト 日本酒「IWA」



日本酒監修



リシャール・ジョフロワ

酒蔵建築



隈研吾

プロダクト
デザイン



マーク・ニューソン

アート
ディレクション

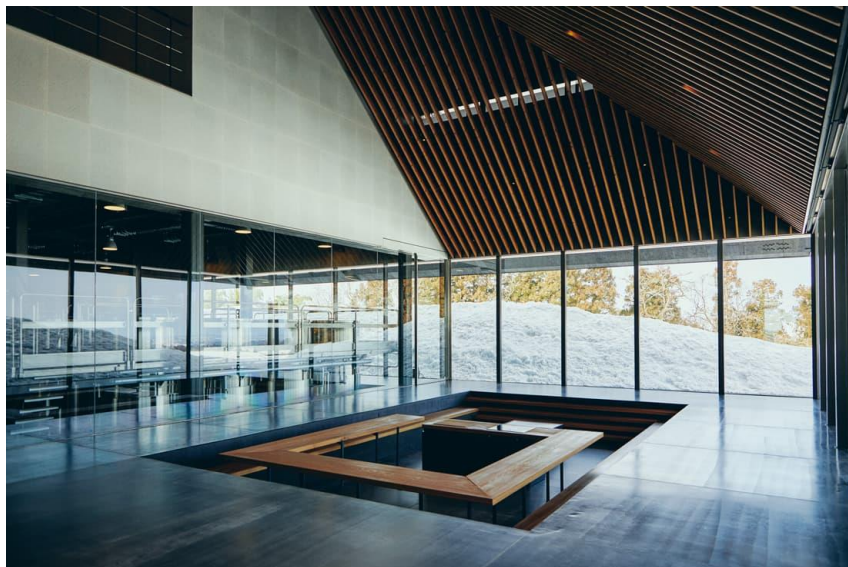


中島英樹

題字
(タイポグラフィ)



木下真理子





「Y's Calligraphy Collection」

あなたの表現は、手と心と精神の間に存在する繊細な結びつきを的確に伝えています。その結びつきこそ、私たちが日本の芸術において深く感銘を受けているものなのです。日本の伝統とフランスの感性が交わるこの出会いは、私たちがフランス館を通じて実現しようとした文化間の対話の力を象徴しています。日本文化の深みを称える、あなたの作品の質の高さと繊細な芸術的アプローチに敬意を表します。積み重ねてきた技術と創造的な感性を対話させるというあなたの取り組みは、最も注目に値するものです。

大阪万博2025 フランス館総監督 ジャック・メール

少年の頃より私が心の糧としてきた言葉を、木下真理子さんに書いて頂きました。「自性清浄心」。仏教の言葉で、人間が本来持って生まれた本性のことです。背筋を伸ばし、息を止め、一点一画をおろそかにしまいと真っ白な紙に向かってゆく書家の姿が目に見え、浮かんできます。書に凝固された思い、気持ちちがそのままに伝わって来ました。

第76・77代 内閣総理大臣 桐花大綬章受章 海部俊樹

私はモーグルという激しい競技をしながら、心には日本の女性らしい柔らかさを忘れたくないといつも思っています。「私らしく」、そう木下さんに書いて頂いた書は、自分の心の中をそのまま表してくださっているような気がしました。強い思いと、雪を滑っているような滑らかさ、そして、女性らしい柔らかさ。素敵な書にしてみました。

女子モーグル選手 上村愛子

全体的な構成・文字の濃淡のバランスなど、見れば見るほど愛着を感じます。作品は、今の木下先生のライフステージ。年齢を重ねるごとに違った作品になるような気がします。それも見てみたいです。

ライオン株式会社 会長 藤重貞慶

それぞれの文字が生き生きして、力強く勢いがあり、その一方で全体が凜としていて美しく調和している、そんな木下さんの作品に深く感銘いたしました。

株式会社島津製作所 代表取締役社長 中本 晃

木下さんの書により、改めて初心に戻り、更なる勇気を戴いた思いが致します。

株式会社日立製作所 相談役 庄山悦彦

書は空間芸術である、とは木下さんから教わったことだ。墨と余白のゆるぎない緊張関係を自己の表現としたいと言われる。“自らを媒体”として人前に差し出すこともまた、空間との緊張関係を自己の表現とする営みだろう。木下さんの目はつねに空間のさらに向こうにあるものを凝視しているように思われる。ときに妖しいまでの強い光を放つその双眸に、わたしは魅せられずにはいられない。

中央公論新社 編集長 堀間善憲